

**第72回大分県畜産共進会
審査報告書**

社団法人 大分県畜産協会

1. 肉牛の部 (平成23年10月1日)

第72回大分県畜産共進会、肉牛の部が皆様のご協力により無事終了し、ここに審査の結果をご報告できますことを、審査委員を代表して心からお礼を申し上げます。

今回の出品頭数は、黒毛和種去勢牛40頭、交雑種去勢牛10頭の計50頭でありましたが、枝肉重量不足のため黒毛和種3頭が審査対象外となり、計47頭で審査を行いました。

枝肉の審査につきましては、(社)日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準として行いました。

まず、黒毛和種去勢牛であります。出品牛の月齢は24か月～29か月で、平均28.2か月でありました。昨年と比べて0.7ヶ月短縮されました。

種雄牛別では寿恵福17頭、八重福栄7頭、藤平茂7頭、隆茂38頭、満清福2頭、安平土井1頭、糸藤1頭となっております。

枝肉重量では最大607.1Kg、最小432Kgで平均501.8Kgと昨年と比較し枝肉重量は1.3Kg減少いたしました。

次に枝肉の格付け状況ですが、歩留等級につきましては、A等級22頭(55%)、B等級以下15頭(45%)でした。

肉質等級では、5等級14頭(35%)、4等級16頭(40%)、3等級以下7頭(25%)で4・5率は今年の84.6%よりも下がり【75】%でした。

また、肉質につきましては、脂肪交雑(BMS No)が、3～12で、平均6.9、ロース芯面積は最大74cm²、最小44cm²、平均54.9cm²で、皮下脂肪の厚さは、最大5.3cm、最小1.5cm、平均3.1cmでありました。

これらの成績は、前年と比べBMS Noは0.3高く、ロース芯面積1平方cm小さく、皮下脂肪厚は同じでありました。

今回は、前回に比べると5等級の割合が増えたものの4等級割合が減ったため4・5率は9.6ポイント低下したほか、B等級以下の割合が昨年より11.7ポイント増えておりました。これは、皮下脂肪に改善が見られず、ロース芯面積が昨年より小さくなったことによるものと考えられることから、今後とも更に飼養管理技術の一層の向上と改善に努めていただきたいと思います。

次に、2区の交雑種去勢牛10頭の結果ですが、出品月齢は24～29か月齢で平均26.2か月と、昨年と比べて0.8ヶ月短縮されました。

枝肉重量は平均518.8Kgで前回に比べ22.3kg大きくなっていました。

格付け状況ですが、歩留等級につきましてはA等級1頭、B等級8頭、C等級1頭となっております。肉質等級では、5等級1頭、4等級2頭、3等級7頭であり、2等級はありませんでした。

前回に比べるとB等級以上の割合、枝肉重量も増えるなど改善が見られますので、今後とも引き続き一層の飼養管理技術の向上に努めていただきたいと思います。

2 肉用牛の部（平成23年10月22日）

本日61頭の出品牛を審査。出品者の皆様にこれまでの飼養管理に対し敬意を表する。

全体的な所見として、発育並びに体積があるものが多く、体の伸び・体の深さもあり腹容が十分あるものが揃っており、腿の充実についても優れるものが多かった。

出品牛は大型であるが体の品位、骨あじで少し粗いものも見受けられたが全体として良好であった。

惜しい点として①後軀の尻では尻の形状は幅のあるもの、しぼまったものなど少しバラツキがあること。②肋・中軀の張り出しが少し弱いこと③前軀幅が不足するものがあること④毛質は良いもの堅めのものとバラツキがあること⑤皮膚のゆとりが足りないものが多かったことである。

さらに肩付きで肩の上の付着は良いが、肩端が出ているものが少し見られた。長崎全共でも繁殖性の向上が課題であり、確実に1年1産するような雌牛を残すことが生産効率を上げる早道であると考えている。外貌所見で肩付き、体上線、体の品位の良いものは分娩間隔が短くなる傾向にあり、体の品位は全体として良いが肩付きや肩端が出ている等の牛は、繁殖能力に影響が出るのではないかと考えられるので、改善に努めていただきたい。

何カ所かの共進会を拝見してきたが、全体的に少し肢蹄の強さが足りないようである。

栄養状態では、来年の長崎全共を見据えて申し上げると、全体の取り決めとして栄養度7になった場合はいくら姿が良くても上位に持って行かない約束になっており、特に今回臀部と尾根部に脂肪が蓄積しているものが多く見受けられたので注意していただいて栄養度7と判定されないように飼養管理に注意していただきたい。

また、審査では、和牛の大きさを揃える目的から過大の牛についても上位に持って行かない取り決めとなっており、体高は自分で測れるので全共に向けて対応を考えていただきたい。

本日の審査で、農林水産大臣賞とした6区のNo.59-61については、全共の高等登録群と同じ条件となる。3頭とも種牛性の高い牛を揃えるのは難しいが、本日の出品牛は体積・均称、資質・品位に富み母牛の美点が子並びに孫に伝えられているということで農林水産大臣賞とし、母牛の良いところが子に伝えられており相似性としてあわせて特別賞とした。

九州農政局長賞については若雌の中から選定。各区のチャンピオンとも発育、体積、体の品位あたりはすばらしいものがあつたが、その中で1区No.8は肋の張りとし肩付き、2区No.24は、やや毛色、尻の形状と幅、3区No.28はやや品位で4区No.42は、やや体上線、皮膚の厚さとやや顔品、5区No.52は体上線はやや緩めであるが資質、毛の柔らかさ、皮膚のゆとりに優れ、月齢は若いから九州農政局長賞とした。

長崎全共に向け課題になっているのは、肉牛の部では脂肪交雑は入るようになったが、さらにおいしい肉にするという難しい課題が求められる。

おいしい牛肉を作るために脂肪交雑を入れ、特に肉の柔らかさについて貢献してきたと講評がされているが、最近では肉の旨みについて注目が集まっており、これからは脂肪交雑も必要であるが、入る脂肪の質についても問われる時代になってきた。

今回の全共から脂肪の質も評価に取り入れて序列を決めることとしているが、うまい牛肉を作る必要があり、そのためにはキメ・締まりも関係していると思われるので、豊後牛の銘柄を作り上げていくためにも脂肪交雑だけでなく、旨みについても注目し、おいしい牛肉の出来る遺伝子を選抜しながら、一方では本日見せていただいたように豊後牛としての持ち味並びに種牛性として評価の高い牛を選抜していただきたい。

3 乳用牛の部（平成23年11月6日）

乳用牛の部の審査につきまして以下の通りご報告致します。

1. 未經産牛クラスについて

未經産牛は4クラスで47頭が出品されました。各クラスとも発育に優れ、肋がよく開帳しており、全体を通じて若牛として望ましい乳用性を備えているものが多く出品されておりました。反面、月齢を考慮すると明らかにオーバーコンディションと思われるものや、後軀の充実に欠ける牛が見受けられたのは惜しまれる点でありました。さらに、後肢は飛節が鮮明で幅と角度も概ね望ましいと思われましたが、中には後望して飛節を寄せるものが散見されました。

ジュニアチャンピオンとなった第3部の305号は背線が強く、この区分としては群を抜いた発育を見せており、各部位の鮮明さや肋の開帳、総合的に体全体の骨格構造が極めて正確で歩様素晴らしく、乳用雌牛としての優美さを見せておりました。

2. 経産牛クラスについて

経産牛クラスは3クラスで25頭が出品され、比較的年齢の若い2歳～3歳クラスでは総じて大型の牛が出品されておりましたが体全体の鮮明さや乳用性の優れた牛が数多く見受けられました。各出品牛共に後乳房の幅は素晴らしく、乳房の付着点の高さは若牛らしさを見せておりましたが、乳頭の配置や前乳房の付着の強さといった面でまだまだ改良の余地があると思われます。

3歳～4歳以上の第6部～7部においては、共に体各部の構造が充実した牛が数多く、実に見応えのあるクラスでした。前駆の強さと、乳用性を備え、いかにも泌乳能力の高さを感じさせる乳房の質の良さと、後乳房の幅に富んだ牛が揃っておりました。その中で、素晴らしい体の骨格を持ちながらも、乳房靱帯の衰えからくる乳房底面の低さが目立ってしまい、上位に出来なかった牛が見られたのは非常に残念でした。最終的に706号をグランドチャンピオンに選ばせていただきましたが、理由として非常にスケール雄大で体長があり、体各部の移行もなめらかで前乳房の付着が強く、後乳房の幅に富み、底面高く、産次を重ねてもなおゆるみのない骨格の強さや、乳頭のサイズ・配置の良さは際立っていると思われました。

3. その他

天気に恵まれず、コンディションの悪いなかで出品者の皆様には大変ご苦労されたのではないかと感じております。しかしそのような中にあっても出品牛レベル・出品技術の高さは素晴らしく、乳牛改良への熱意と県全体の改良レベルが非常に高いと言っても過言ではありません。今後の大分県乳牛改良レベルが更に向上し益々活躍されるよう祈念申し上げます。

最後に、本共進会に関係されたすべての方々に対し深く感謝申し上げます。

平成23年11月

審査委員長 金塚 秀夫